

平成30年度 町有施設の温室効果ガス（二酸化炭素）排出量を公表します

町では、「地球温暖化対策の推進に関する法律」の規定により、市町村に策定が義務付けられている温室効果ガスの排出量削減のための措置に関する計画として、平成28年4月より「第2次猪苗代町地球温暖化対策実行計画」（以下「実行計画」という。）を施行しました。

「実行計画」では、平成26年度を基準年度とし、計画期間の最終年度である令和元年度の二酸化炭素排出量を、基準年度と比較して3.8%削減することを目標としています。

対象施設一覧

施 設 名	施 設 名	施 設 名
役場庁舎	水道施設	幼稚園
水防センター	下水道施設	体験交流館
地域農業活性化センター	小学校	図書歴史情報館
農村環境改善センター	中学校	むかし体験館
優良堆肥製造施設	保育所・こども園	地域福祉交流センター

総合体育館（カメリーナ）など指定管理者制度により外部委託している町有施設は対象外としています。
指定管理者には可能な限り「実行計画」の趣旨に沿った取組みを実践するように要請しています。

表1 種類別の使用量及び二酸化炭素排出量

種 類	H26 使用量		H30 使用量		H26 排出量 (kg-CO2)	H30 排出量 (kg-CO2)	排出量比較 (%)
ガソリン	36,567	ℓ	36,512	ℓ	84,895	84,768	△0.15%
灯油	167,469	ℓ	162,061	ℓ	416,911	403,448	△3.23%
軽油	142,615	ℓ	68,070	ℓ	368,659	175,958	△52.27%
A重油	2,000	ℓ	1,000	ℓ	5,419	2,710	△50.00%
液化石油ガス (LPG)	7,411	Kg	6,205	Kg	22,225	18,608	△16.27%
電気使用量	3,875,832	kwh	3,896,823	kwh	2,151,088	2,162,737	0.54%
合 計					3,049,197	2,848,229	△6.59%

○表1は、平成26年度と平成30年度の燃料などの種類別の使用量と二酸化炭素排出量を比較したものです。

○平成30年度の二酸化炭素排出量の合計は、基準年である平成26年度と比較して6.59%の減少となり、目標である基準年度比較3.8%減を達成しました。

○基準年より二酸化炭素排出量の合計が減少した主な要因として、種類別の二酸化炭素排出量では、軽油の△52.27%、次にA重油の△50.00%が挙げられます。

○電気使用量のみ0.54%増加しました。

表 2 種類別の二酸化炭素排出量増減の主な要因

種類	増減率 (%)	主な要因
ガソリン	△0.15	公用車における使用減
灯油	△3.23	小学校、中学校における使用減
軽油	△52.27	除雪車における使用減
A重油	△50.00	地中熱ヒートポンプ冷暖房システムによる使用減
液化石油ガス (LPG)	△16.27	こども園、小学校、中学校における使用減
電気使用量	0.54	体験交流館、こども園、小学校、中学校における使用増

○表 2 は、種類別の二酸化炭素排出量増減の主な要因についてまとめたものです。

○今後も各施設において、照明、空調などの適正な管理や公用車エコドライブの推進、再生可能エネルギーの導入などに取り組み、目標達成に向け計画の推進に努めていきます。